

自己評価

大No	分類	小No	評価項目	R6評価	前期評価	判定	前期判定	Aの回答率	Bの回答率	Cの回答率	Dの回答率	肯定的回答率	否定的回答率
I	教育目標	1	校長の経営方針のもと目指す生徒像を意識した教育活動を実践している。	1.44	1.23	A	B	52%	48%	0%	0%	100%	0%
II	校務分掌	2	校務は、適切に分担され意欲的に取り組める環境にある。	0.30	0.48	C	C	11%	52%	30%	7%	63%	37%
III	学習指導 ・進路指導	3	基礎・基本の定着を図る授業をしている。	1.56	1.34	A	B	64%	36%	0%	0%	100%	0%
		4	「学び合い」や「グループ活動」などの協働的な学習活動を取り入れた授業を行っている。	1.36	1.24	B	B	44%	56%	0%	0%	100%	0%
		5	「習熟度別課題」や「発展的な内容」を取り入れた個に応じた指導を行っている。	0.75	0.76	C	B	25%	54%	17%	4%	79%	21%
		6	学習習慣づくりに向けた家庭学習の手立てをしている。	0.88	0.52	B	C	29%	54%	17%	0%	83%	17%
		7	指導と評価の一体化を心掛け、生徒の意欲や自信につながる評価を行っている。	1.32	1.07	B	B	40%	60%	0%	0%	100%	0%
		8	生徒が自らの生き方について考え、正しい職業観を身に付けることができるように進路指導を行っている。	1.29	1.10	B	B	38%	63%	0%	0%	100%	0%
		IV	生徒指導 ・道徳指導	9	生徒理解のために生徒とのコミュニケーションをとり、いじめ・不登校・問題行動等への予防に努めている。	1.64	1.19	A	B	72%	28%	0%	0%
10	諸問題に組織的かつ迅速に対応している。			1.11	1.03	A	B	56%	26%	19%	0%	81%	19%
11	道徳の実践力を高めるための指導を日常的に取り組んでいる。			1.32	1.10	B	B	40%	60%	0%	0%	100%	0%
V	特別活動	12	行事等が職員の共通理解のもと、生徒が達成感・成就感を味わえるよう計画されている。	1.22	1.06	B	B	37%	59%	4%	0%	96%	4%
		13	朝読書や図書館の活用を積極的に進め、豊かな感性の育成を図っている。	1.44	1.29	A	B	52%	48%	0%	0%	100%	0%
		14	生徒が充実した生徒会活動を行えるような指導に努めている。	1.32	1.27	B	B	40%	60%	0%	0%	100%	0%
VI	職員会議 ・校内研	15	職員会議に積極的に参加し、決定事項を実践している。	1.62	1.39	A	A	69%	31%	0%	0%	100%	0%
		16	校内研に主体的に参加し、授業力向上に努めている。	1.50	1.39	A	A	58%	42%	0%	0%	100%	0%
VII	家庭・地域 との連携	17	保護者や地域の各種相談について誠実に対応し、日々の教育活動に反映できるよう努めている。	1.44	1.26	A	B	52%	48%	0%	0%	100%	0%
		18	諸活動の対応に外部の方と連携を取るなど開かれた学校づくりがなされている。	1.30	1.26	B	B	44%	52%	4%	0%	96%	4%
		19	各種情報手段（HP・メール・たより等）を用いて、学校や生徒の様子を積極的に公開している。	1.37	0.94	A	B	52%	44%	4%	0%	96%	4%
VIII	小中連携	20	小中連携は、9年間を見通した教育課程による学習指導および生活指導の充実に役立っている。	0.93	0.97	B	B	30%	56%	15%	0%	85%	15%
		21	小中連携は、特別支援を含めた情報交換により、小学校から中学校への円滑な移行による安定した学校生活に役立っている。	1.15	1.03	B	B	37%	56%	7%	0%	93%	7%
		22	小中連携は、幅広い異年齢集団による豊かな人間性・社会性の育成に役立っている。	1.11	1.00	B	B	33%	59%	7%	0%	93%	7%
IX	職場環境	23	生徒が「通ってよかった」と感じ、楽しく学校生活を送れるよう努めている。	1.73	1.35	A	B	81%	19%	0%	0%	100%	0%
		24	職員が「勤務してよかった」と感じられるような福利厚生、多忙感解消の仕組み等の環境が整っている。	0.48	0.29	C	C	22%	44%	22%	11%	67%	33%
		25	教師集団がひとつにまとまり、相談しやすい環境にある。	0.52	0.48	C	C	16%	56%	20%	8%	72%	28%
		26	安全点検が計画的に実施され、危険箇所・修繕個所の対応ができてきている。	1.23	1.06	A	B	54%	35%	12%	0%	88%	12%
		27	緊急時の対応（防犯・防災）について共通理解が図られ、計画的に訓練が行われている。	1.29	1.29	A	B	54%	38%	4%	4%	92%	8%
		28	教育活動に必要な施設・設備が整っている。	0.07	-0.29	C	C	11%	41%	30%	19%	52%	48%

No	自由記述 (自己評価)
I	目標に向かって取り組んではいるが、その姿にまだ生徒たちが近づいてはいないと思う。
I	教職員と連携を取りながら生徒の実態に応じた教育活動を行っている。
I	先生方は、全般的に良く取り組んでいると考える。
I	自ら考え、行動できる生徒の育成に努めている。
II	どうしても負担が大きくなってしまいうところもあるが、できるだけ分散・協力していけたらと思う。そのために資料や様式などを共有のフォルダの整理と記録を残すことが大切だと思う。
II	お互いの大変さを理解し合える環境にしたい
II	分担に偏りがあるように感じます。
II	特定の人に重い仕事が偏っているように見える。
II	仕事のできる先生にどうしても分掌が偏ってしまっている気がする。
II	分掌に偏りがありすぎる気がします。
II	分掌によって軽重はあるが、協力体制はあると思う。担当は積極的に周りに協力を求めていくことも大切だと思う。
II	一部の教員の負担が大きいと感じる。また、計画的に進めたいが、行事等が多く時間が足りないと感じている。
II	校務の分担に偏りが生じるのは仕方のないことだとは思いますが、フォロー体制が感じられない。
III	お互いの技量を見合い、高め合う体制づくり
III	発展的な内容を授業で扱っていない。基礎基本を定着させることに力をいれている。
III	中学校生活をどのように送るか考えることも大切であるが、自分の将来をに見つめることができる機会が必要だと思います。
III	教室で授業を受けられない生徒の進路指導の難しさがある
III	指導と評価の一体化については研究を深めたい。
III	進路選択が身近な場所になことから、受験を目前にして、実現が厳しい進路選択をしている。入学時から卒業後のことを考えさせていきたいと思った。
III	授業時間の確保が難しい。指導内容を終えることすら厳しい授業時数で、振り返りやグループ活動等を行う時間を生み出すことが難しい。
IV	リーダーシップがほしい
IV	生徒指導問題での対策に行き詰まりを感じている。
IV	市や児相、スクールサポーターらと連携を持ち活用しているため組織的ではあると思うが、迅速ではないと感じることもある。諸問題が発生したときは早急に関係者を集めて方針を決める意識を持ちたい。
IV	現在の使用している道徳の教科書は文章が長いので、違う出版社にできないか。来年度はできないと思いますが。
IV	日々生徒指導に取り組んでいる。
IV	ルールの確認・徹底が大切だと思う
IV	学年生指・学年主任をはじめ、学校生指が連携して生徒指導に入ってくれるのでありがたいと思います。
IV	報連相はできていると思うが、考えすぎずシンプルに対応することも必要。「叱る」と「怒る」の違いに気を付け、望む生徒像に近づける指導を心がけたい。
IV	情報共有が十分に行えていないと感じた。

No	自由記述 (自己評価)
IV	生徒とコミュニケーションをとる時間がなかなかとれない。日々、様々なことが予定されていて忙しく、ゆとりがない。
V	多くの意見が反映されにくい
V	これまでも行ってきたが行事の精選を行った方がよい。また小中連携で行うものについては、小中の児童会・生徒会顧問だけではなく教員同士の共通理解を簡単にでもいいので図るべきではないだろうか。
V	生徒が充実した学校生活が送れるように日々準備、指導をしています。
V	職員の共通確認が取れていないように感じます。行事等に限らず職員による指導もまちまちなような気がします。
V	「何のための活動」かを考えさせる指導が大切だと思う。
V	生徒は、よりよい学校生活を実現するために一つ一つの取組に真剣に企画、提案をしていると思った。しかし、教員間で生徒のやりたいことへの共通理解が図れていないことがあり、十分な成果を上げることができなかつたと感じた。また、地域貢献活動を年一回に集約できないかと思う。年末の成績、進路指導の時期と被り3年生が活動関わることを躊躇してしまふ。後期生徒総会も同様に、進路成績に関わる期末試験前に、3年生に議案書作成をお願いするのが心苦しく、代議委員会で総括を行えると、期末後でも多少ゆとりがあると思う。
V	行事の精選が必要だと感じる。小中連携、芸術鑑賞等、もちろんよい行事だと思うが、もう少し回数を減らしてもよいのではないだろうか。生徒会活動についても精選することも必要だと感じる。学期末の忙しい時期に、生徒総会を2時間かけて行うのはどうなのか。生徒会選挙の討論会で意見を出し合う場を設ける。生徒総会は学級討議をしっかり行い、中央委員会で学級の意見を出し合うのはどうだろうか。
VI	自分事として捉え、連絡事項は徹底する
VI	本年度の成果が見えづらい校内研になっている
VI	私の指導力不足で、「自走」に必要な知識や技能がまだ身につけていない生徒が多いと感じた。自分の授業を改善していく機会になった。
VI	教員同士が互いの授業を見に行ける学ぶ機会が設けられるといいのかなと感じた。
VI	提出物などを期限に出すことや、確認されたことは守るなど、連携を取って取り組むことが大切だと思う。
VI	校内研究を大切に、実践してほしい。
VI	職員会議で、提案された内容があいまいなまま会議が終わってしまうことがある。
VI	小中連携の校内研の在り方について、検討していただきたい。
VII	地域・家庭と連携が取れていると思います。
VII	クラスルームや安心安全メールなどのツールを活用し、連絡など頻繁に行っている。
VII	生徒のこと以外で連絡することは難しいが、生徒を通じて保護者の反応をうかがうことも必要と考える。
VII	地域との繋がりを行事だけでなく、自然と行える環境ができるとよいと思う。
VII	働き方改革の中、学級だよりを作成する余裕がないように感じる。
VIII	いろんな教科による授業交流をより一層充実していければと思う。
VIII	小中連携に関しては、特に特別支援教育において、もう少し情報交換ができると良いと感じる。
VIII	生徒指導面での小中で統一した指導・詳細な情報共有が必要だと思う。
VIII	もう少し小中で連携する場面があってもいいのではないかと感じました。

No	自由記述（自己評価）
VIII	中学校における授業の様子を小学生に見せる機会があっても良い。
VIII	家庭学習の習慣化などは小さい時からの積み重ねが大切なので、小中で継続した取り組みが必要だと感じる。
VIII	小中連携を行うことは時間的にも難しい場面があるが、今後も必要なこととして、絶やさないようにして行ってほしい。
VIII	十分は情報を小学校からもらえなことがあり、入学後に対応することが多々あった。特別に配慮が必要な場合など、中学校側で事前に準備をしておかなければならないことは、しっかり共有していきたい。
VIII	小中連携は、もちろん必要で大切なことだとは思いますが、連携の方法（どのような行事を何回行うのか、研究会をどう行っていくのか等）を検討していただきたい。
IX	もう少し、教職員がコミュニケーションを図っていく必要あると感じる。職場環境については、もう少し若い先生方が主体的に様々な活動を企画運営し、ベテランがサポートする体制が取れると良いと思います。
IX	夏は暑く冬は寒い。仕方ないことではあるが、エアコンやストーブの使用基準をもう少し緩く設定してほしい。
IX	水周りの環境がよくない。また玄関の施錠が困難なときが多い。水周りの環境改善は難しいと思うが、施錠については改善してほしい。鍵をひとつかけるだけで数分かかるときがある。
IX	学校内の電波がよくなってほしいです。
IX	次第に職場環境が整ってきていることを感じる。
IX	トイレがよくつまる。教頭先生がいつも修理してくださっているが、学校自体が古くて何度も修理が必要になってしまう。
IX	教員数が少ないため多忙感は解消されていないように感じる。また、wi-fiの設備が整っていないためICTを活用できないことがあり、不便を感じる。
IX	足りないところは教育委員会と連絡しながら改善していきたい。
IX	体育館へのWi-Fiを設置してほしい。環境を作るために割く時間が多いと思う。
IX	多忙感解消には至っていない。フォロー体制が感じられない。相談しようと思っても、あまりいい雰囲気では対応していただけないように感じている。施設・設備については、難しいことも理解しているが、体育館・特別教室のICT環境、トイレ等、環境整備をお願いしたい。

<考察>

- ・ 28項目中23項目で肯定的回答が80%以上であった。
- ・ 28項目中25項目で、前期評価よりも向上が見られる。
- ・ 個に応じた指導については前期評価より下がってしまった。生徒の実態により、基礎基本の定着に力を入れたためと考える。
- ・ 家庭学習の手立てについては評価、判定とも前期より向上した。校内研の取組の成果と考える。
- ・ 校務分掌、職員集団、職場環境については前期、後期ともに低評価となっている。個業から協働への転換が進んでいない実態が影響している。
- ・ 施設設備についてもようやく評価値がマイナス値を脱却した。継続して市へ働きかけていくとともに、改善できるところは早急に改善をしていく。

<改善>

- ・ 行事の多い2学期に校務分掌の偏りが目立ったので、日ごろから学年部、領域研究部等で協働して取り組むことを習慣化させ、チーム学校を意識させる。
- ・ 施設設備、使用規定など学校単独で改善が難しいものについては継続して市に要望をしていく。
- ・ 安全点検は教師だけでなく、生徒にも意識させ、異状個所が発見されたときは速やかに伝えるよう、継続して指導していく。
- ・ 行事の見直し等を含め、多忙感解消に向けた取組を継続して行っていく。
- ・ 授業の余剰時間数削減についても工夫して取り組み、教師が生徒に向き合う時間を確保できるようにする。

<学校運営協議会部会委員より>

- ・ 授業時間の確保について、困難さを抱えている先生がいるようだが、グループ活動やICT機器の活用などを毎時間行うのではなく、本当に大切な学習内容の指導に重点をおいてほしい。話し合いなどは単元に1度程度でよいのでは。
- ・ 指導がまちまちという声が自由記述にあるが、いろいろな先生がいるから生徒は救われる。生徒が混乱するほど指導方針が異なるのは問題だが、先生方が同じ方向を向いてくれば、指導方法に差異があるほうが安心できる。
- ・ 学級だよりがなかなか出せないという反省があったが、毎月発行される学校だよりや学年だよりで学校の様子は十分把握できるので、学級だよりは無理に出さなくてもよいのでは。この部分こそ個業でなく協働にできるところではないか。担任の先生からは三者懇談や電話等で様子をうかがう機会もあるので。
- ・ 家庭学習の習慣化について、校内研でも取り組んでいるとのことだが、まだ生徒や保護者に習慣化の実感が得られていないようである。小中一貫校であるので、小学校で取り組んでいる「家庭学習強化週間」を中学校でも取り組んでみてはどうか。
- ・ 先生方のウェルビーイングがそのまま生徒のウェルビーイングにもつながるので、先生方の多忙感、負担感軽減に努めてほしい。行事や部活動を単に減らすのではなく、細く長く持続可能な形で続けていってほしい。本年度部活動の外部コーチを8名つけていただいた。来年度以降も継続、増員をお願いしたい。先生方の人員についても、少なくとも本年度と同等以上の人数確保に加え、男女比を考慮した人事を県や市に強く要望していただきたい。学校運営協議会としても人事については強く要望する。